

## 令和5年度 学校評価アンケート結果について

今年度も学校評価のアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。この調査は、児童・保護者・教員の三者にアンケートを取り、その傾向を分析することで、学校教育をよりよいものにしていくとするのが主な目的です。

### 項目1について

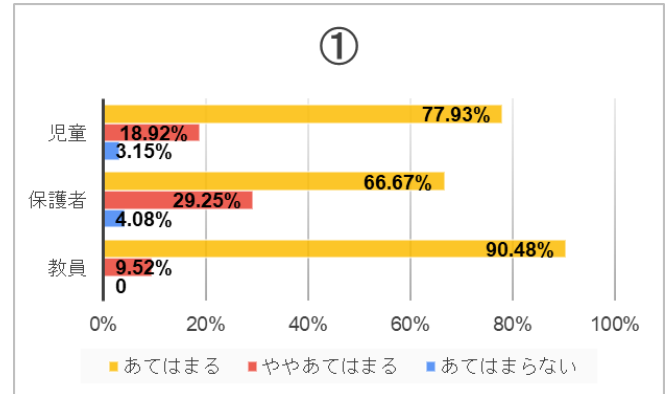
児童：学校は楽しい。

保護者：子どもは、楽しい学校生活を送っている。

教員：子どもたちが、楽しい学校生活を送れるように支援している。

### ◆分析と今後の取組

「学校は楽しい」にあてはまらないと回答している児童が3%です。全校児童が241名なので、約7人の児童が楽しくないと感じています。担任をはじめ、教員で楽しくないと感じている児童を把握し、個別に支援していきます。これからも全児童が楽しいと思える学校を目指し、一人一人を大切に、子どもの思いや考えに寄り添いながら教育活動を進めていきます。



### 項目2について

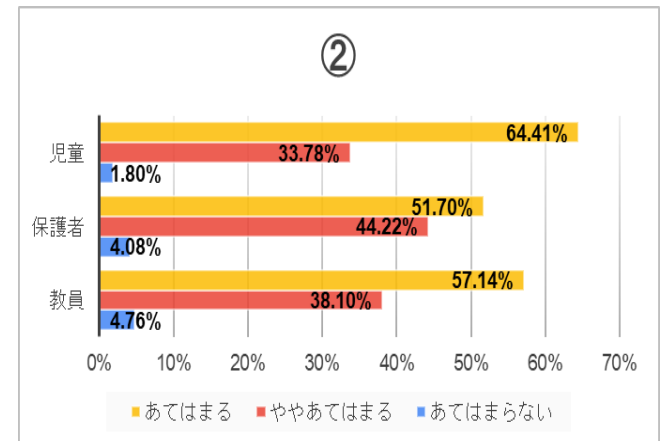
児童：授業中は、自分の考えをつたえたり、友達のことを聞いたりしながら勉強している。

保護者：子どもは、授業中に自分の考えを伝えたり、友達のことを聞いたりしながら学んでいる。

教員：子どもたちが、対話をしながら深く学べる授業を実践している。

### ◆分析と今後の取組

概ね良い結果と捉えています。1. 8%、約4人の児童があてはまらないと回答しているので、考えの伝え方を工夫していきます。授業中に言語活動を取り入れるとともに、GIGA端末に自分の意見を書き込んで考えを共有する活動も取り入れ、どの児童にとっても「主体的・対話的」で深い学びになるように目指します。



### 項目3について

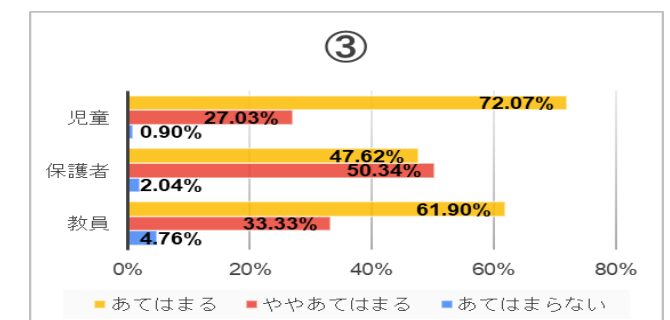
児童：授業の内容はよくわかる。

保護者：子どもは、授業の内容を理解している。

教員：子どもたちが、わかる授業を実践している。

### ◆分析と今後の取組

概ね良い結果と捉えています。あてはまらないと回答した児童0.9%約2名の児童には、授業に入り込み支援をしたり取り出して個別支援をしたりして対応します。



項目4について

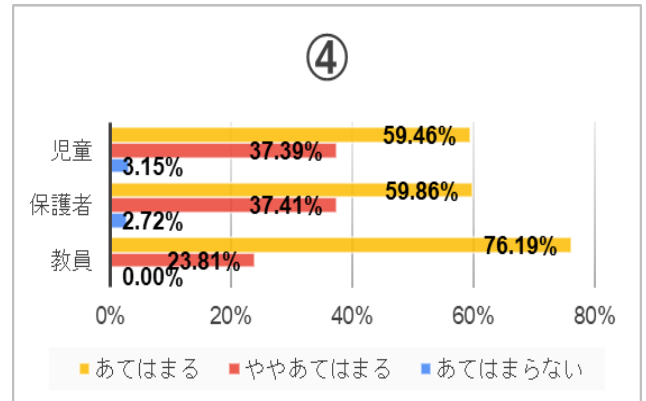
児童：自分のことが好きで、大切にしている。

保護者：子どもは、自分によいところがあると思っている。

教員：子どもたちの良さを認め、自尊感情が高まるようにしている。

◆分析と今後の取組

あてはまらないと回答している児童が3%、約7名いて課題と捉えています。担任をはじめ、教員があてはまらないと回答している児童を把握し、自己肯定感を高められるように個別のサポートを行い、自己理解と自信の構築を支援していきます。



項目5について

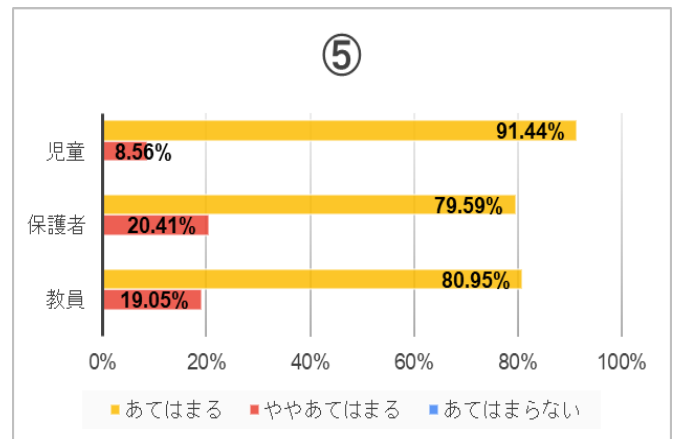
児童：友達のことを大切にしている。

保護者：子どもは、友達を大切にしている。

教員：子どもたちが、友達と仲良く協力して学校生活が送れるよう支援している。

◆分析と今後の取組

ほぼ全児童が肯定的に回答しており、良い結果と捉えています。



項目6について

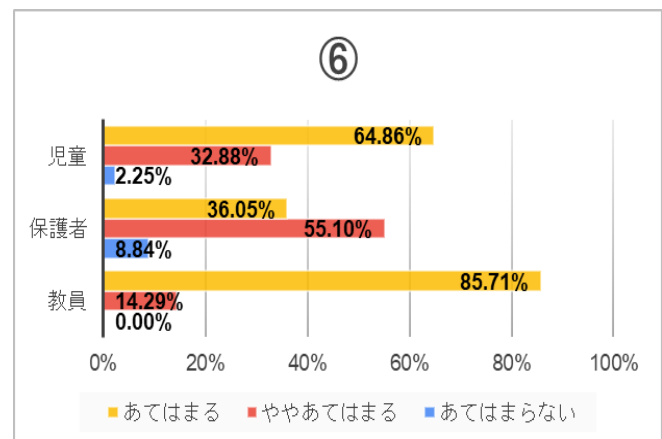
児童：自分から気持ちの良い挨拶をしている。

保護者：子どもは、自分から気持ちの良い挨拶をしている。

教員：子どもたちに挨拶の大切さを指導し、自らも子どもたちに気持ちの良い挨拶をしている。

◆分析と今後の取組

概ね良い結果と捉えています。あてはまらないと回答した2%約4名の児童には、ひきつづき挨拶の大切さを伝えていきます。



### 項目7について

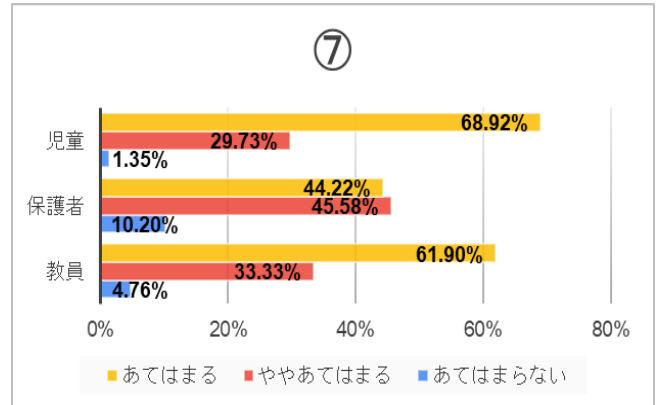
児童：進んで運動し、給食を好き嫌いなく食べようと努力している。

保護者：子どもは、進んで運動し、食事を好き嫌いなく食べようと努力している。

教員：子どもたちが、進んで運動したり、自分の健康に関心を持ったりできるように指導している。

#### ◆分析と今後の取組

概ね良い結果と捉えています。休み時間には、寒さになげず元気に校庭で遊んでいる児童がたくさんいます。今後も食育と運動の大切さに関する指導を続け、健康に生活できるようにしていきます。



### 項目8について

児童：自分から進んで本を読んでいる。

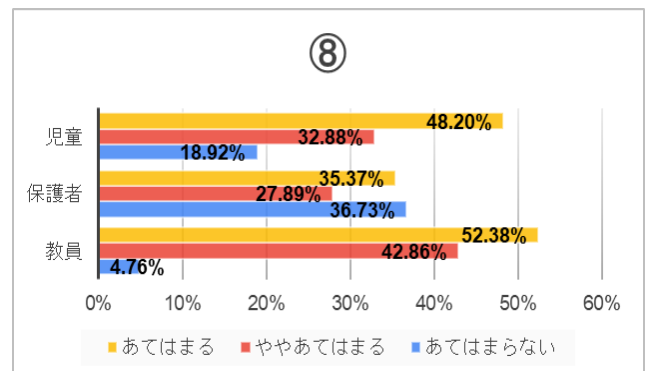
保護者：子どもは、進んで本を読んでいる。

教員：子どもたちが、進んで本を読めるように声をかけている。

#### ◆分析と今後の取組

あてはまらないと18.9%、約45名回答しており、課題と捉えています。読書習慣の育成や読書意欲の向上を目指し、読み聞かせや読書の楽しさを伝える活動に取り組んでいます。子供たちに確かな読書習慣を定着させるためには、家庭での読書習慣は、とても大切です。家読に取り組んでみるのはいかがでしょうか？

家読(うちどく)・・・「家族ふれあい読書」の略。家族と一緒に読書をし、コミュニケーションを深めること。



### 項目9について

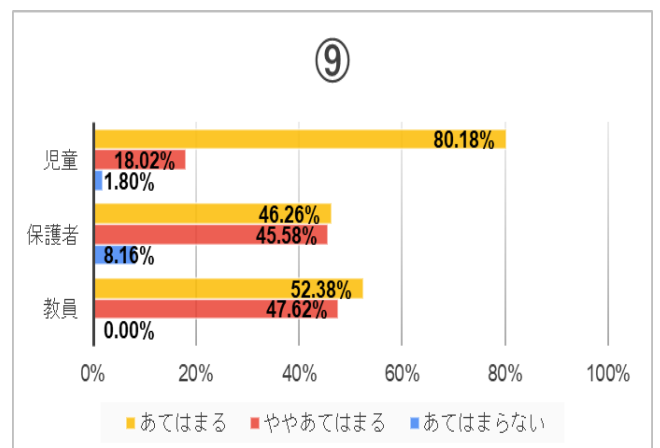
児童：GIGA 端末を使うときの約束を守り、進んで学習に活用している。

保護者：子どもは、約束を守ってGIGA 端末を使用し、学習に良い効果が出ている。

教員：子どもたちにGIGA 端末の使い方を指導し、GIGA 端末を学習に効果的に活用させている。

#### ◆分析と今後の取組

概ね良い結果と捉えています。今後も情報モラル教育に力を入れながら、GIGA 端末を生かした学習を進めていきます。



項目10について

児童：悩みや困ったことがあったら家族や友達、先生などに相談している。

保護者：子どもは、悩みや困ったことがあったら、家族や友達、先生などに相談している。

教員：悩みや困ったことがあったら家族や友達、先生などに相談するよう、子どもたちに声をかけている。

◆分析と今後の取組

あてはまらないと6.7%約16名の児童が回答しており、課題と捉えています。教員は、相談できていると捉えているのに、相談できていない児童がいるようです。教員が出来るだけ子供の傍に寄り添い、信頼関係を構築し、子供と悩みを共有できるように努めていきます。

「SOS の出し方・受け止め方教室」を実施し、SOS を出すことの大切さを指導し、「SOS は3人まで諦めないで伝えましょう」「友達から相談されたら抱え込まず大人にも相談してみましょう」ということを伝え続けていきます。

